



【読書】キャラクター「おっほん」

札幌市立幌北小学校

読書活動の取組

読書センターとしての機能

■委員会「おすすめ本紹介」

- ・図書委員会が、給食時間の放送で「おすすめの本」を全校に紹介。
- ・校内にも、「新しい本の紹介」ポスターを作成・掲示し、読書活動を推進。

◎読書に親しむ活動を、自治的・自発的に広めることができた。

■全校で「読み聞かせ」活動拡大

- ・全校一斉に行う朝の読み聞かせを、年間9回実施。その時々の各学級の実態に合わせて、担任が選書した本を読み聞かせ。
- ・開放図書ボランティアの保護者による読み聞かせの会も、令和6年度は、全学年で実施（計20回）。

◎各学年の発達段階や学習内容、季節や行事などに合わせた様々な内容の本に触れることができた。



学習センターとしての機能

■「学習に適した本の充実」

- ・新しい教科書で紹介されている新書や、本校の総合的な学習の時間の学びに役立つような本を入荷し配架。
- ・各教科の調べ学習に役立つ本や、国語辞典・漢和辞典なども手に取りやすいようになっている。

◎各学級の授業で多く活用されている。

情報センターとしての機能

■「情報活用能力の向上に向けて」

- ・「インターネットや SNS との上手な付き合い方」が学べる本や、真偽の不確かな情報をうのみにせず考えられる力など「情報化社会を生きる上で必要な力」をつけられる本などを新しく入荷した。

◎子どもたちも教師も一緒にデジタルシチズンシップや情報モラルを学ぶきっかけとなっている。